

第一中だより

文京区立第一中学校
校長 山内 卓司

【教育目標】○進んで学習し、よく考える人 ○責任を重んじ、思いやりのある人 ○心身ともに健康でねばり強い人

「挨拶の輪」

校長 山内 卓司

先日、第1学年学級代表委員の自主的な取組として、入学して1ヶ月が経ったところでの生活を振り返る学年集会を開かれました。いくつかの改善点の呼びかけがありましたが、その中で本校が特に力を入れて取り組んでいる「挨拶」について、とても素晴らしいスピーチがあったので全文をそのまま載せてご紹介いたします。

私からは「挨拶」について話したいと思います。

最近、先生との話の中で、校長先生が「挨拶」について話されていたと聞きました。内容は『先生や先輩を含む校内での「挨拶」を特に大切にしていきたいと思います。』というものでした。

さて、私が中学校に入ってから「挨拶」でうれしかったことが2つありました。1つ目は、朝、校門の前で先生や校長先生に「挨拶」をしたときのことです。私が「おはようございます。」と言ったら、先生たちがとっても元気に返してくれて、なんとなく朝から元気をおすそ分けしてもらったような気持ちになりました。2つ目は、体験入部3日目くらいの時です。部活動の先輩にちょっとビクビクしながら「こんにちは。」と「挨拶」したら先輩たちが、「あ、こんにちは。」とさりげなく返してくれました。その時、「ようこそ。」と言われた気がして、「ここでがんばっていいんだ。」とすごくホッとしました。「挨拶」はたった一言でも、その時の声のトーンや表情で、受け取る側の気持ちが大きく変わるものなのだと思います。あの時、先輩の「あ、こんにちは。」が自然で温かく聞こえたからこそ私は安心できたけれど、もし違う雰囲気だったら、きっと違う気持ちになっていたと思います。そう思うと、「挨拶」はすごくシンプルだけど実は繊細で、相手の心にちゃんと届くかどうか大事にしないといけないのだなと感じました。

ところで、なんで校長先生は新学期の一番最初に『勉強や部活動ではなくて「挨拶」の話を先生方にされたのだろうか？』と私なりに少し考えてみました。もしかしたら、それは「挨拶」がいろいろなことの始まりになるからかなと思いました。

学校もクラスも先生も新しくなって、今年は「はじめまして。」が多い年です。そんな中で最初に交わす「おはよう。」や「よろしくね。」がちゃんと伝わると、それだけでちょっと安心できたりします。それができてからじゃないと、自分の気持ちを話したり、一緒に何か頑張ったりするのはやっぱり難しいです。「挨拶」を通して、この学校を気持ちのちゃんと通い合える『居場所』にしていきたいって考えているのかもしれないとも思いました。

「挨拶」を一人一人の気持ちの繋がるきっかけとして、大切にしていけたらいいなと思います。

最後まで聞いてくれてありがとうございました。

このように生徒一人一人が「挨拶」の意義を受け止め行動する、「挨拶の輪」が一中に広がってくることを期待しています。

2年防災宿泊体験

第2学年が、5月9日(金)13時30分から5月10日(土)8時まで防災宿泊体験を行いました。実施した内容は「体験プログラムを9つ」や「避難所運営講座」などです。夕食は炊き出ししたお湯で非常食カレーとスープを食べ、就寝時は畳一畳と毛布3枚を割り当てられ、男子は体育館、女子はサブアリーナで宿泊しました。

閉会式での校長講話では災害の関連死に触れ、災害に遭っても「たくましく生き抜く心」を育むために、今は学校生活で好きなことも嫌いなことも努力し、心を鍛える必要性があることを伝えました。

協力していただいた「区防災危機管理課」「小石川消防署」「東京消防庁」「防災士」「町会」「中央大学学生ボランティア」の皆様、本当にありがとうございました。



起震車体験



消火訓練



炊き出し体験



簡易トイレ、パーティションの組み立て体験



避難所運営講座

表彰

ソフトテニス部 令和7年度文京区春季大会 女子団体 優勝

※これから各運動部の3年生が最後の大会を迎えます。
応援よろしく申し上げます。